

平成28年12月 和歌山県議会定例会会議録 抜粋
第4号（岩井弘次議員の一般質問への知事答弁）

関西広域連合は、私の言葉で整理をいたしますと、3つ意味があると。1つは、当初よく言われたんですが、国の出先機関の受け皿になりたいということでありました。2つ目は、行政の一部を統合して効率化を図るということでありました。3つ目は、広域的な課題に協力して、統合はしないんだけど協力をすると、一緒に取り組むと、この3つを目指すものであろうかと思えます。

しかしながら、この3つの目的のうち、国出先機関の受け皿づくりについては全然うまくいっていません。これを広域連合の本旨であると、あるいはあったというふうに言って、だから広域連合はだめと言うような人もいますけれども、これはもともとうまくいくはずがないし、それから逆にうまくいったとすると、実は国の出先機関に広域連合がなってしまうということがございますので、どちらかというあんまり望ましいものではないと私は思っておりましたが、私の留守中に決まったことなんで、反逆をするのはいけないなと思って黙っておりました。

うまくいかなかったんですが、時の政権の甘言に乗った人もいて、マスコミの注目を大いに集めて、そればかりが喧伝されたんですが、結果的には、論理的にそういうことでございますので、うまくいきませんでした。

2つ目の統合による効率化ということは、実は小さい分野ですが着々と進んでおります。一部の資格試験の共同実施などについて進んでおりますが、何分、領域が大変小さいということでございますので、範囲は限られているということだと思います。

一方、3番目の広域的な協力ということについては、私はもともとそれが中心と思っていたので、所定の成果は十分上げ得ているんじゃないかというふうに考えております。具体的に申し上げますと、まず広域防災の分野では、災害発生時に一致協力して即座に全体として支援を行えるというような体制を構築していこうということでしたが、例えば東日本大震災や熊本地震のときには、カウンターパート方式というのをうまく組織して、みんなで協力して被災地支援を即座に実施できたところなんかは大きいと思います。

実は、和歌山県で起こりました紀伊半島大水害のときも、早速、広域連合防災局が助けあげようかということで、ずっと後詰めをやって来てくれました。後詰めというのは、和歌山県と国その他でうまくやったものですから、あんまりたくさんを具体的に助けてもらってないんですけど、それでも常にフォローしてくれて、問題が起こったらすぐ応援を出すという体制をずうっと整えてくれたのは大変評価すべきことだと思います。

具体的には、ボランティアの派遣を私は要請いたしました。それをアレンジしてくれたし、それから土木の技術屋さんの派遣ですね、これについても全体で協力してくれて、かつ九州にも頼んでくれて、和歌山県の復旧が早かった原因となっているというふうに思っております。

次に、東日本大震災に端を発した電力危機とか原子力への対応が挙げられると思います。これは、1県だけでやると、例えば関西電力との関係でいっても、関西電力の供給範囲というのは関西全域ですから、どうしてもうまく話がかみ合わない。みんなでまとまって、

それで社長さんなんかとも議論をして、関西全体の利益をリーズナブルに集約していったということができたのではないかというふうに考えております。

それから、広域インフラ、これ実は私が担当しとるんですが、これについてもみんなで応援しようということができておりますし、差し当たっての大問題としては、北陸新幹線と、それからリニア、これの早期開業について、みんなで力を合わせてやっとなんかということではないかというふうに思います。

また、危険ドラッグ対策も広域連合内で情報共有をした結果、和歌山県の先進事例——そのものじゃないんですが——に多少準じたような同様の条例が各県でつくられまして、それで関西全体の対策が進んだと思います。

関西ワールドマスタースゲームズ 2021 については、これは関西広域連合で受けないととてもじゃないが受けられないわけですが、それを誘致に成功してこれからということになっておりますし、今、万博の大阪開催、これをみんなで応援しようかというふうに動き出しているところでございます。

また同時に、今度は和歌山なんかはどちらかというところと人口の少ないところですので、全体で引きずられて、どうしても嫌なことを強制されないようにする必要もあったかと思えます。これは、制度の設計のときに大分知恵を出しまして工夫をしましたので、うまくいっていると私は思っています。大事なことは全員一致、それから個々の事業は、それに参加したくない者は参加しなくていいと、そのかわり口もお金も出さない、そういうふうに決めておりますので、嫌なことはしないでもいいということになっております。

例えば、嫌なことかどうかはわかりませんが、ドクヘリの統合という問題がありました。これについては、ドクヘリは関西では和歌山がパイオニアでございます。県民は、みんなそれに誇りを持っておりますから、和歌山県ドクヘリという立場は守らしていただきました。それで、ただ、従来どおり協力はするというので、関西広域連合でもうまくやっていただいていると思っております。

実は、私自身は関西広域連合の行事が多過ぎてちょっとつらいところもあるんですが、今申し上げましたように、関西全体で一致協力して取り組むという体制は大事なことだと思っておりますので、これは大事にしていきたいと思っております。

平成28年12月 和歌山県議会定例会会議録 抜粋
第4号（岩井弘次議員の一般質問への知事答弁）

関西広域連合は道州制とは違いますので、どうしてもやっぱり県というものが別に消えるわけではございません。したがって、県が関西広域連合の機能をうまく使っているんな事業をしておれば、逆に県民のほうからすれば関西広域連合の姿が見えないというところはどうしても出てくるかなあと。逆に言うと、県がたがたになって、それでかわりにやってというような話になるとそれが出てくるんですが、今のところそんなことはございませんので、御指摘のような点はどうしても出てくるかなあとというふうに思います。

ただ、説明を申し上げていけないといけないので、メリット、デメリット——メリットということを上げますと、例えば、先ほど申し上げましたが、原子力、電力、エネルギー、違法ドラッグ、そういうような問題については共通の課題でございます。1県だけではあんまり重視されない意見も、みんながまとまれば関西全体の意見として世の中に影響を及ぼすということができていくと思っております。

それから、各論的に言っても、先ほど言いましたように、広域防災分野については、これは大変役に立つ仕掛けであろうかと思えます。

それから、広域インフラについてはこれからの問題でございますけれども、これも例えば関西全体にとって大変大事な、東京との関係で大事なリニアの同時開業の問題もしくは早期開業の問題、あるいは北陸新幹線の早期開業の問題、こういう問題については力を合わせてやる手段ができたということで、これもメリットになってるんじゃないかというふうに思います。

それから、広域観光とか広域産業の領域については、関西広域連合でもプロモーションをやっています。こういう問題は、関西広域連合だけがやるというんじゃないで、どうしても二重に、多層でやっていって、それで使えるところを使っていくというようなことでやるしかないと思っております。統合しているEUも、実はこういうプロモーションに関してはそれぞれがやっていて、それで問題なくやってると思っております。合同プロモーションなんかを関西広域連合で企画してくれますので、これを和歌山県としてどう利用していくかなということで、そのところを利用してやる場合はそっちに行って、独自でやるときは独自でやると、そういうようなことで成果を出していきたいと考えております。

それから、先ほど言いました、範囲は小さいんですけど、調理師、製菓衛生師、准看護師といった資格試験・免許、これを広域連合全体でやっておりまして、これについては効率化になるところだと思っております。

したがって、和歌山県にとってメリット、デメリットを考えますと、デメリットは先ほど申し上げましたように、マイナスのところは一応封じておりますから、全体としてはメリットのほうが大きいんじゃないかというふうには思っております。